



Message

「夢の実現に向けて 農大で学びませんか」

栃木県農業大学校 校長 高林 実

本校の学生たちは、講義に加え、約48haの広大な校地に広がる田畑やハウス群、牛舎などで、暑い日も寒い日も仲間と共に実習に励んでいます。本校は県立の専門学校であり、県の研究機関で開発した新品種や新技術を学ぶこともでき、グリーン農業やスマート農業についてもこれまで以上に力を入れていくこととしています。

2年間の実践を重視した学びで得られる高度な専門知識や技術は、自営就農、雇用就農をはじめ、農業に関わる仕事をする中で必ず役立つものとなります。また、寮生活も含め、喜びも苦労も分かち合った仲間との絆は卒業後も続きます。

さらに、本校は来年度創立120年を迎え、本県農業の指導者や優れた経営者として活躍する多くの同窓生の存在も心強い支えとなっています。

本校での学びは、きっと将来にわたり農業に夢を描く皆さんの力になることでしょう。ぜひ本校で学びませんか。皆様のご入学を心よりお待ちしております。

第46回農大祭を盛大に開催!!



11月22日（金）、23日（土）の2日間、第46回農大祭を開催しました。

1日目は、校内のみの開催とし、各学科専攻で調理した焼きそばや牛串などを互いに提供し合っ、その美味しさに舌鼓を打つとともに、ビンゴ大会や軽音楽愛好会のライブ演奏などを行い、大いに楽しみました。

また、茨城県立農業大学校、千葉県立農業大学校との三校交流会として、各校から学生自治会役員を招いて、農大祭の状況や施設の見学、意見交換を行いました。昼食は、本校学生と同じ食事を召し上がっていただき、さらに交流を深めることができました。

2日目は、昨年度に引き続き一般公開としましたが、約2,500名と大勢の来校者がありました。農畜産物販売や模擬店、子牛ふれあいなどのイベントを行い、来校されたお客様に楽しんでもらうことができました。

学生自治会役員を中心に準備を重ね、成功を収めることができましたが、次年度は、新役員を中心に、さらに盛大な農大祭を開催したいと思います。

海外派遣研修～栃木県農産物のグローバル化に努力したい



作物専攻1年
青柳 達也さん

私は、栃木県農業振興公社が主催する「栃木県青年農業者海外短期派遣研修」に参加し、10月10日から17日までの8日間、有機農業推進に取り組む環境先進国のドイツと園芸生産をリードする農産物輸出国のオランダに行き、先進的な農業を間近に学びました。

ドイツの有機農場では、消費者の健康や周辺環境に加えアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を徹底しており、生産された農畜産物を農場内施設で加工し販売する六次産業化の取組が印象的で、本場のソーセージやジャガイモ料理は日本で食べるものとは異なり食文化の違いを肌で感じることができました。また、現地の青年農業者との交流では、互いの国の農業について学びを深めることができました。

オランダでは、世界最大級の花き卸市場であるアールスメール花市場の見学を通じて効率的な流通体制の重要性を感じた他、大規模なチューリップ等球根農家の流通・輸出までを自身で担う経営や、大規模野菜農家のスケールメリットを活かした大型農業機械による栽培には感動を覚えました。

今回の研修で学んだ知識やアイデアは日本には無い斬新なものばかりで、自分の当たり前を何度も壊されるような内容でしたが、この学びを活かして先進的な農業経営を実践し、栃木県の農産物をグローバルに展開できるよう努力していきたいと思います。

最後に、今回の研修参加は指導担当の先生からの紹介があり決めましたが、研修前後でのサポートもしていただき充実した研修となりました。ありがとうございました。



農業生産学部 農業総合学科・ 作物専攻

作物専攻水稲班では、「とちぎの星」など良食味品種を用いた高密度播種苗栽培や疎植栽培などの技術を学ぶ他、ICT技術への取組として水田センサーを活用した水管理やドローンによる湛水直播栽培にも挑戦しています。

作物専攻畑作班では、「もち麦」として人気がある二条大麦「もち絹香」や大豆・そばなどを栽培し、子実の成分分析やもち・味噌・蕎麦の加工を学ぶ他、畦畔雑草の発生状況調査や防除法の検討を行っています。

学生は、それぞれ10a程度の田畑を担当し、農業機械の操作を含め田畑や作物の栽培管理を主体的に実践しながら、社会的に期待が大きい低コスト・省力化技術の検証に取り組んでいます。



今年初めて出会い、ともに生活してきた1年生

トピックス

とちぎの星の湛水直播栽培ほ場の防除作業では、2年生が地元農家で共有するドローンを借用し自ら操作して薬剤を散布しました。周囲で見っていた学生たちは、ドローンをより身近に感じたらしく、卒業論文の設計にドローンの活用を盛り込む1年生が現れました。



ときにぶつかり合うも、互いに助け合ってきた2年生

農業生産学部 農業総合学科・ 露地野菜専攻



ねぎの定植実習の様子

露地野菜専攻では、機械化一貫体系による玉ねぎ・ねぎを中心に需要が高い季節露地野菜の栽培管理技術習得を目指し講義や実習を行っています。

また、新たな施設・農機では、地下水水位制御により転換畑利用時の給排水が容易な地下灌漑システムや育苗時の自動灌水システム、乗用管理機等について学べます。

本年度の2年生が取り組む卒業論文では、化学農薬の使用を抑えた環境に優しい栽培技術としてコンパニオンプランツや食酢、LED捕虫器、被覆資材を利用した病害虫防除の他、省力化や低コスト化を目的とした農業資材、栽植密度等の研究に取り組む等、持続的に発展可能な露地野菜の生産に資するよう頑張っています。



育苗中のねぎ苗と一緒に



ねぎ圃場にて

農業生産学部 農業総合学科・ 施設野菜専攻



施設野菜に関する基礎知識や最先端の技術習得を目指します

本県の主要な施設野菜品目であるいちご・トマトを中心に、1年生 17名、2年生 14名が実習と講義を通して栽培技術や経営を学んでいます。

いちごは「とちあいか」「スカイベリー」「とちおとめ」等、本県オリジナルの品種を、土耕および高設の高機能養液栽培装置で実習しています。特に「とちあいか」は、現在の「いちご王国・栃木」を支える主力品種ですが、全国の農業大学のなかでも、学習材料に「とちあいか」を使えるのは本校だけの特典です。

トマトではロックウール培地による養液栽培や、土耕栽培での越冬長期どり栽培の実習をしています。栽培している品種は、県の主力品種である「かれん」「れおん」等です。特に、温度・湿度・炭酸ガス濃度などの栽培環境を遠隔制御できる本校の高軒高ハウスでは、全国有数の高い単収を誇る栃木方式ハイワイヤー土耕栽培を行い、収益性の高い栽培技術を学んでいます。

Pick Up!

いちご



いちご高設栽培ハウスでの収穫の様子です。「とちあいか」の果実を傷めないよう、早朝から収穫を始めています。

Pick Up!

トマト



高軒高ハウスのトマト収穫が11月に始まりました。収穫段数が多いため、調査期間も長期に渡ります。

農業生産学部 農業総合学科・ 花き専攻



2年生5名、1年生2名、合計7名の学生がカーネーションやランチュラスなどの切り花やシクラメンやあじさいなどの鉢花、カトレアやファレノプシスなどの洋ラン類、パンジーやビオラなどの花苗等、多くの花についての講義と実習により、栽培技術や経営について学んでいます。また、ハウス管理当番により朝夕や昼休みにかん水や管理作業に取り組み実践的な栽培管理についても身につけることができます。

また、2年生になると自分で品目を選び卒論に取り組みます。自ら課題の選定から栽培管理、調査等を行い、学生生活の集大成である卒論にまとめます。

栽培した花々は、校内販売や市場出荷を行い、販売することの大切さについても学んでいます。特に、農大祭での花の販売は名物となっており、シクラメンやポインセチアの鉢花、パンジーやビオラの花苗を中心に学生自ら販売を行います。消費者との交流や販売することの喜びなど貴重な体験となっています。



花き2年 知事と夫人にカーネーション贈呈（母の日）



花き1年 シクラメンの葉組み作業

農業生産学部 農業総合学科・ 果樹専攻

果樹専攻では、なし、ぶどうを中心に9種類の果樹を栽培しています。

特になしでは、平成29年度から日本なしでGlobalG.A.P.の認証を取得し、国際水準の生産工程管理を学ぶことができます。

ぶどうはシャインマスカットや巨峰を中心に、主に種なし栽培を行っています。樹型も従来の長梢栽培のほかに、種なし栽培に適した短梢栽培も学ぶことができます。作型もハウス、雨よけ、露地があり、それぞれの作型に応じた栽培管理を学べます。

また、ぶどう、なし、ももでは従来の地植え栽培よりも早期に成園化できる根圏制御栽培も学べます。

このほか、スピードスプレーヤーや乗用草刈機等の操作方法、多目的防災網や雨よけハウスのビニール張りなども実習で体験できます。

なお、果樹専攻は、他の学科専攻と比べると学生数は少ないですが、就農準備校「とちぎ農業未来塾」の研修生やインターンシップの県内農業高校生等と年間を通して一緒に実習をする機会があり、世代の異なる果樹農業を志す人たちが交流できる学びの場になっています。



果樹根圏制御栽培（ぶどう）



果樹ビニール張り（雨よけぶどう）

農業生産学部

畜産学科



うしサークルで共進会に出品しました！



先輩お世話になりました！

畜産学科では、乳肉複合施設のドリーム牛舎で、乳用牛・肉用牛における飼料給与・搾乳等の飼養管理やU-motionなどのICT、飼料作物の栽培・調製、家畜人工授精師の資格取得など、畜産経営に必要な知識や実践的な技術について学んでいます。

専攻実習は酪農と肉用牛に分かれて行っており、酪農（チーム名：ミルファーム）では、フリーストール牛舎での搾乳牛の飼養管理、ミルキングパーラーでの搾乳をメインに、「哺乳牛からベテラン牛」までの管理を、肉用牛（チーム名：29肉）では、ICTによる繁殖管理や体重測定の日データに基づく飼料給与、放牧等の技術を学んでいます。

朝夕の牛舎管理も365日学生が行っており、専攻実習も含めて学生主体の「想造管理」が実践されているのも当学科の特徴です。

今年は、家畜人工授精師養成講習会の一環として、卒業生の和牛繁殖牧場への校外学習で、歴代最高の名種雄牛生産にまつわるお話を聞かせていただきました。



『いちご経営者になる!』『いちご王国・栃木』を担う人材となるため、強い意志・目標を持って入学した仲間同士が、日々いちごに特化した知識、栽培技術を学んでいます。

特に、卒業後、即独立自営を実現させるため、学内及び生産現場における実習に重きを置いたカリキュラムを組むとともに、地域のリーダーになるため、栽培技術だけにとどまらず、人材マネジメント、リーダーシップ論など経営管理に関する科目も学んでいます。

一方、農業者、経営者には、仲間づくりも重要です。いちご学科の学生は、志を同じくする仲間意識が高く、卒業後も在校生の学習や活動に協力的です。今年度の農大祭では、校内の生産物に加え、初出荷を迎えた卒業生たちが提供してくれたいちごも販売し、多くの来場者にいちごを味わっていただくことができました。

これからも、いちご学科は「結」を大切に、優れた経営者、担い手を育成していきます。



プランター利用による親株管理



農大祭での即売会

個性豊かな先生紹介



農業総合学科 水田農業担当 伴技師

こんにちは！今年度4月から農業機械研修を担当しています伴です。

主な業務内容は、大型特殊とけん引免許の取得に向けた指導です。トラクターに初めて乗る方もいますので、丁寧なサポートに努めています。

その他授業では、農業機械のメンテナンス実習や農機具メーカーの整備工場視察等を担当しています。農業経営に役立つ知識・技術が身につきますので、一緒に頑張りましょう。



農業総合学科 施設野菜専攻 三沼技師

普及の現場で3年間、未来塾で1年間いちごの栽培を担当してきました。今年からは農業総合学科の施設野菜専攻でいちごを担当しています。趣味はバードウォッチングで、校内では国鳥のキジや日本最小の猛禽類であるツミなど、多くの野鳥を観察することを楽しんでいます。

いちご栽培の魅力を伝え、学生の皆さんの学びをサポートします。自然豊かな農大で、いちご栽培のノウハウを学びませんか？

学生生活

~Campus Life~

学生自治会長



吉村 愛美さん

学生自治会

学生自治会は、選挙で選ばれた役員で構成されています。学校生活を充実させるため、スポーツ大会や農大祭、サークル活動の企画・運営を行っています。

私は、今年度学生自治会長を務めました。活動を通し様々なことを学ぶことができました。各行事は、前年度までを参考にしつつも、より楽しく充実した行事にするために話し合いを重ね、終わった後は大きな達成感があります。他県の農業大学校との交流も再開し、新たな出会いもありました。活動には大変なこともありますが、行事中の皆の笑顔や達成感に喜びを感じられるのは学生自治会の特権です。

来年度は、当校の120周年となります。今年度より、さらにパワーアップした学生自治会活動に期待しています！

学生自治会 Photo Album



収穫祭にて全員で会食



茨城・千葉農大との交流会



農大祭で農畜産物販売



農大祭、開催宣言



大人気、お米重さ当てクイズ

寮生活紹介

農大では、入寮が義務づけられている1年生と、2年生の希望者が入寮しています。毎朝7時の起床、点呼で始まり、毎晩22時に点呼、23時に消灯となる規律ある生活を日々送っています。

寮生で運営している「寮生会」は寮生活をよりよくするための活動をする自主的な組織です。寮生の意見を取り入れ、寮環境の整備（大掃除や洗濯機等の増設など）や親睦行事（ビンゴ大会など）を行っています。また、火事を想定した消防訓練を行い、非常時の対応の確認も行っています。

寮の仲間とは朝起きてから寝るまで、ずっと一緒に過ごすため、仲が深まります。1年生と2年生も厳しい上下関係はなく和やかに過ごしています。

寮生会長



露地野菜 2年
青木 元さん



男子寮風呂の大掃除



消防訓練

活躍する卒業生・同窓会長メッセージ

voice

先輩たちの声



角田 聖さん

令和元年度卒業

角田さんは栃木県上三川町できゅうり農家を営んでいます。親もきゅうり農家を営んでおり、卒業後の4月に自分でもきゅうり農家を始めました。きゅうりの他にも玉ねぎ、サニーレタスを作っており、きゅうり20a、玉ねぎ25a、サニーレタス20aを作付けしています。

野菜はあぜみちという直売所に出荷しておりお客様に好評とのこと。お客様にとにかく質の良い野菜を提供したいという思いで栽培しており、形や色にこだわっています。

今後挑戦したいことは、サニーレタス、玉ねぎもお客様に評判がいいため、作付け面積を増やして収量を増やしていきたいとのこと。

○在校生に向けてのメッセージ

勉強ももちろん大切だが、多くの友達と交流し、遊び、楽しい思い出をたくさん作って行きましょう！学生のうちにできること、挑戦できることはして行くべき！

角田さんは、近所の米農家さんとも協力しあっており、田植えの時期になると稲の苗床の作成等のバイトを農大生の中から3人募集をしています。

興味がある方は是非ご参加下さい。

角田さんの今後の活躍が期待されます。

(インタビュー：令和5年度卒業 金敷 尋人さん)



久野 望さん

平成30年度卒業

就農5年目にお父様から経営を継承し、益子町で主に和牛繁殖(30頭)、水稻10ha、梨70aを経営しています。また4Hクラブで役員を務めており、10月に開催された4Hクラブプロジェクト実績発表会関東大会では、自身の和牛部門の取り組みを発表され、全国大会に出場することが決まりました！

○困っていること

近年の飼料費や資材費の高騰には本当に困っています。また、異常気象で記録的な高温が続き、牛たちにも扇風機で風を当てたり、飼料を変えたりなどの対応も大変です。

○農大生へひとこと

農大では様々な資格を取ることができるので、在学中にできるだけ資格を取っておくことをお勧めします。仕事をしながら資格を取りに行くのはなかなか大変だと思います。また、先生方とは卒業後にお世話になることも多いので、積極的に交流を深めた方が良いと思います。

○農大での思い出

農大では仲間たちと寮生活を送ったり、イベントに参加したりできたことが良い思い出です。仲間とのつながりは今でも続いており、遊んだり、経営の相談をしたりできるかけがえのない存在となっています。

(インタビュー：令和5年度卒業 直井 駿佑さん)

黒崎 蓮さん

令和5年度卒業

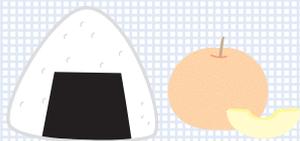
私は令和5年度卒業生の黒崎 蓮です。

卒業後、生まれ育った芳賀町で水稻を中心に農業を営んでいます。毎日自然との戦いで新しい発見と共に農作物が上手くいくかというドキドキの気持ちでいっぱいの日々を送っています。

これからは繁忙期の分散と収入の向上の為様々な品目に挑戦していきたいです。

在校生の皆さんは将来に不安があると思います。しかし不安になることはありません。農大での学びや生活は決して無駄ではないからです。実習での経験、仲間との絆や思い出は強い助けになります。仲間を大切にしよう学びよく遊んでください。

同窓生の皆さんの活躍は私の励みになっています。今度は私が皆さんの励みとなれるようこれからも精進していきますので応援よろしくお願いします。



山口 真央さん

平成30年度卒業

氷室町で梨1.6haをお母様と2人で経営しています。お父様が病気で働けなくなったことを機に就農し、あとを継いで美味しい梨を作れるように日々奮闘しています。

○自身について

作業や生産履歴の申告などに毎日取り組んでいますが、経験が浅く分からないことも多くあります。それでも1つ1つ確実に遂行し身につけていきたいです。

○農大生へひとこと

最初は分からないことも多く悩みや課題がたくさんあると思います。特に、自然を相手にしている農業では、どう頑張ってもうまくいかないこともあります。しかし農業には正解がないのでどこまでも勉強し続ける、そして何よりそれを楽しむことが大切だと思っています。

○農大での思い出

インターンシップで大規模梨農家さん(法人)のもとへ行き、自分の家との作業の違いや経営方針にとっても衝撃を受けました。

寮生活では講義が終わった後のオフの時間を友達と過ごせたことが楽しかったです。

(インタビュー：令和5年度卒業 直井 駿佑さん)





渡邊 宏幸さん

平成元年度卒業

渡邊さんの家は元々カーネーション農家だったため、農業が身近にあり中学生の頃から将来は農業をやりうと考えていて農業高校を卒業後、栃木県農業大学校へ進学し、2年間学んだ後に家に即就農しました。現在では、鹿沼市粟野地区にて土地利用型で主に米麦82haを従業員3人と役員2人の計5人で経営しています。

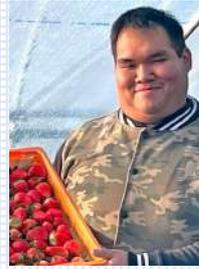
現在、渡邊さんは社長という立場に立ち、後継者不足の中で農地をいかに守っていくかということに使命感を持ちながら仕事をしています。また、従業員の福利厚生や事務的な作業は頭を使い大変だが、みんなで楽しく農業ができるという事にやりがいを感じていると仰っていました。

今後は、畑作農家と地域で連携して堆肥を使う農産物を生産する、耕畜連携で循環型農業の実現に挑戦しようと計画しているそうです。

農業大学校在学中は、勉強以外にも学校祭や球技大会などのイベントごとや仲間と過ごす普段の生活がとても楽しかった思い出だそうです。そして、「今では米麦を生産しているが、栃木県農業大学校で園芸を学んだことは今でも一切無駄にはなっていない」「栃木県農業大学校でできた仲間と今でも繋がりがあことは良かった」と仰っていました。

未来の農業を担う在学生へ、「興味を持った事には失敗を恐れずに挑戦をしていってほしい」というメッセージをいただきました。

(インタビュー：令和5年度卒業 小池 清美さん)



飯塚 拓郎さん

平成30年度卒業

真岡市でいちご20aをパートナーと2人で経営しています。就農後5年目まではスカイベリーを栽培していましたが、6年目からはとちあいかを導入しました。将来的にはお父様の経営(いちご50aとコメ4.5ha)を引き継ぎ、規模を拡大していく予定だそうです。

○自身の体験談

就農1年目に市の補助金の手続きでつまづき、補助を受けることができませんでした。その影響で工事の遅れや苗不足が生じ、大変な思いをしました。

○農大生へひとこと

自身の体験談から、就農する方については就農予定の市町村の役所で手順等を綿密に確認し、スムーズに手続きが進められるように準備することが大切だと実感しました。また、役所だけでなく先輩農家さんにも相談することで、土地の情報や資材・設備関係の業者さんともつながることができるため、積極的に聞いていくと良いと思います。

○農大での思い出

インターンシップで大規模いちご農家さんに研修に行き、少人数でも効率よく経営していく技術を見ることができました。そこで学んだ自動化や高設栽培の技術は我が家の経営に活かされています。また、寮生活では、仲間たちと部屋に集まって談笑できたことが良い思い出です。にぎやかに過ごしていて楽しかったです。

(インタビュー：令和5年度卒業 直井 駿佑さん)

Message

農業は注目されている

「令和の米騒動」スーパー等に米がない。値段が高い等々連日新聞テレビで報道されていました。米不足の中で米価は上昇しました。

野菜、果実等についても、品質の劣化や収穫量の減少がありました。畜産についても同様に生産量の変動が大きくなっています。

これらの主要因は、異常気象による猛暑の影響が大きいです。

自然の脅威を感じます。自然の脅威を知恵で出来る限り克服しなくてはなりません。

農大には、それを克服する場があります。施設や環境があります。知恵があります。仲間や優秀な諸先輩がたくさんおられます。

農大に集う皆さん、農業は注目されています。農業で夢や目標を実現することが出来ます。

農大は来年度で創立120周年を迎えます。共に前に進んでいきましょう。

農業大学校

同窓会長

杉山 忠雄



とちぎ農業未来塾



パイプハウス組み立て研修

とちぎ農業未来塾は、栃木県内で農業を始めたいと考えている方が、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを研修しています。週1回の就農準備基礎研修コースは、夏野菜と秋冬野菜に分けて計13種類の作物の栽培と出荷調製を実施しています。また、より実践的な内容を学ぶ就農準備専門研修では、各専攻（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）に分かれて今年4月からの就農に向け、全員が精力的に研修に励んでいます。

とちぎ農業ビジネススクール



講義演習の様子

「とちぎ農業ビジネススクール」は、経営の高度化を目指す意欲ある農業者を対象としたセミナーで、これまでも地域農業の中心的な担い手となる多くの経営者を輩出しています。

セミナーでは、経営者として必要な経営スキルや意識改革を行うため、セミナー及び受講者同士の討論を通じて自分の目指す経営改革の方向を明確化するとともに、経営の個別課題を整理・分析し、実効性のある5か年の「経営改革プラン」を策定していきます。

今年度は、7名がオンラインと対面のハイブリッド型で受講しており、経営改革プランを持ったプロの農業経営者となることが期待されます。